


甲南大学

公募制推薦入学試験

合格対策セミナー

英語対策講座

駿台予備学校 長 祥史



甲南大学 公募制推薦入学試験合格対策セミナー ＜英語対策講座＞

1. 問題形式と時間配分

＜2025 年度＞ 試験時間 60 分

大問	分野	出題内容	解答数	目安解答時間
1	英文読解	8 パラグラフ（700 語程度）の文章を読んで設問に答える。設問内容は、パラグラフの内容に一致する選択肢を選ぶ問題、下線部の語句の言い換えを選ぶ語彙問題、下線部の意味内容を文脈より類推し、正しく言い換えられた選択肢を選ぶ問題、代名詞の指示内容を選ぶ問題が出題され、読解力を幅広く問う内容が出題された。	10	23
2	英文読解	5 パラグラフ（480 語程度）の文章を読んで設問に答える。設問内容は、パラグラフの内容に一致する選択肢を選ぶ問題、下線部の語句の言い換えを選ぶ問題、下線部についての問いに答える問題、本文の内容一致問題が出題され、読解力を幅広く問う内容が出題された。また、下線部の語句の言い換えを選ぶ問題で下線が引かれた単語はやや難易度が高いものが多く、文章中から意味内容を類推する必要があった。	8	17
3	短文空所補充問題	短文中の空所に当てはまるものを 4 つの選択肢の中からそれぞれ選ぶ問題で、ほとんど全てが文法問題であった。出題された内容は、付帯状況の with、仮定法、関係詞、品詞といった文法単元に加えて、What is the point of Ving? 「V して何になるのか」という慣用表現も出題された。	7	5
4	会話文完成問題	2 人の会話文中にある空所にあてはまる語句を選ぶ問題。会話の流れが自然になるように、最も適切な選択肢を選んでいく問題であるが、limit A to B 「A を B に制限する」や interfere with A 「A を妨げる」など動詞の語法がヒントになって解答できるものも含まれていた。一方、会話で使われる特有の表現についての出題はなかった。	8	10

※解答時間は目安で、60 分の制限時間に対して 5 分余るように設定しています。余りの 5 分は、見直しや解ききれなかった問題を解答するのに充てましょう。上記の目安解答時間内に解き切れるように意識しながら過去問を解いてみて、自分なりの時間配分に調整していきましょう。

2. 公募制推薦入試の特徴と傾向

甲南大学の公募制推薦入試は、読解力・語彙力・文法力をバランスよく問う問題が出題されています。なお、2025 年度から問題形式が変更されていますが、2024 年度以前の過去問も勉強に活用しましょう。形式が少々異なっていますが、問題の難易度はそれほど大きく変わりませんし、問われている語彙や文法事項も勉強になりますので、複数年度さかのぼって過去問を解いておくようにしましょう。

2025 年度は、読解問題が 2 題出題され、いずれも文章を読んで後の問題に答える形式で出題されています。まずは問題文に目を通し、どのような問題が出題されているかを確認しましょう。その際に、「第○パラグラフの内容と一致するものを選択肢から選びなさい」という問題が出題されていないか確認してください。パラグラフに対応する問題がある場合は、本文の該当パラグラフの横に「問○を解く！」とあらかじめメモを書いておき、該当パラグラフを読んだ後すぐに、対応する問題が解けるように準備しておきましょう。また、その他には、下線部の単語の言い換えを選ぶ問題や、下線部が引かれた部分についての問いに答える問題が出題されています。これらの問題は、下線が出てきたらその都度対応する問題を解くようにし、本文を読みながら同時進行で進めていくとよいでしょう。単語の言い換えを選ぶ問題については、基本的には語彙力が問われる問題ですが、やや難易度の高い単語に下線が引かれており、文脈より単語の意味を類推する問題も出題されています。特に 2025 年度の大問 2 の長文においては、文脈より類推する問題の比率が高くなっていました。したがって、語彙力の強化は言うまでもなく重要ですが、知らない単語に下線が引かれていてもあきらめず文脈より意味を類推するようにしましょう。

2025 年度の大問 3 は、短文中の空所にあてはまる語句を選択する文法問題でした。高校英文法の主要單元である仮定法や関係詞などからの出題はもちろん、品詞に関する問題も出題されていました。例えば、大問 3 の 1 の問題は、so～that 構文と such～that 構文において、so の後には形容詞か副詞、such の後には名詞が続くという内容を問う問題でした。また、6 の問題は、comparable / comparatively / compared / comparing の中から文に適切な品詞を選択する問題でした。「品詞」(＝名詞・代名詞・形容詞・副詞・前置詞・接続詞)については学習が手薄になりがちな單元です。品詞の分野からの出題もあるということを念頭に、うまく学習計画に盛り込んでいきましょう。

2025 年度の大問 4 は、2 人の人物の会話文中の空所にあてはまるものを選択する問題でした。会話の流れが自然になるように空所にあてはまる語句を選択していきますが、2 の問題では block と interfere という、どちらも「～を妨げる」の意味でほぼ同じ単語から、空所に続く with とのつながりをみて interfere を選択したり、4 の問題では limit A to B という語法に基づいて limit を選択したりする問題も出題されており、「動詞の語法」の知識が問われる問題も出題されていました。語彙力の強化と、大問 3 の文法力の強化が、大問 4 においても有効になります。また、2025 年度は会話独特の表現についての出題はありませんでしたが、会話文である以上、会話で典型的に使われる表現が出題される可能性もあります。参考書を用いて、重要な会話表現は暗記しておくようにしましょう。

3. 今後の学習について

＜語彙力の強化＞

1. 単語帳を使って繰り返し覚えよう。
2. 完璧にしようとするのではなく、「一つでも多く覚えよう」という意識で取り組もう。
3. 過去問の選択肢や読解問題の文章中からも学ぼう。
4. 動詞の語法を強化しよう。

語彙力の強化については、単語帳を1冊選び、それを使って繰り返し学習していきましょう。語彙は完璧にすることが難しい分野で、すぐに忘れてしまったり、覚えたものと違う意味が出てきたりすることが多々あります。最初から、完璧にしようと思わずに、「一つでも多く覚えよう」という意識で取り組んでいくことが重要です。単語帳を一通りやってみた後、また最初に戻ってくり返し学習するようにしましょう。また、甲南大学の読解問題の中の下線部には少々難しめの単語が含まれていることもあります。文脈から類推することも可能ですが、単語の意味を知っていればそれ以上に確実なことはありません。手持ちの単語帳に「難単語」のセクションがあれば、目を通しておくようにするとよいでしょう。

また、勉強していく中で解いた過去問や問題集の長文中からも語彙を増やしていくようにしましょう。長文中や選択肢に含まれていた知らない単語は辞書で調べ、意味を確認していくようにすることが重要です。

語彙力強化のひとつとして、「動詞の語法」の強化も学習計画に組み込んでみてください。動詞にはそれぞれ決まった使い方（＝語法）があります。例えば apologize という単語は「自動詞」で、apologize to A for B「AにBのことで謝る」という形をとります。また、give は「他動詞」で第4文型をとり、give ABで「AにBを与える」という意味になります。このように、動詞は、自動詞か他動詞か、こういった前置詞をとるか、どの文型をとるかがそれぞれ決まっています。動詞については意味だけでなく、語法もあわせて問題集を解いて覚えていくように心がけましょう。甲南大学の2025年度公募制推薦入試では、大問4の会話文中に動詞の語法から解答できる問題も出題されていました。

＜文法力の強化＞

高校英文法をまんべんなく学習しておくことが必要ですが、特に以下のポイントに注目しながら学習していくとよいでしょう。

1. 「動詞の語法（5文型）」を覚えることから始めて、動詞周辺の単元（受動態・不定詞・動名詞・分詞）へと広げていこう。
2. 「比較」「関係詞」「仮定法」は高校英文法の最重要単元！念入りに学習しよう。
3. 「時制」→「助動詞」→「仮定法」の順で学習しよう。
4. 「品詞」（名詞・代名詞・形容詞・副詞・接続詞・前置詞）は勉強が手薄になりがち＝出題されたときに差がつく単元→計画を立てて学習しよう。

「動詞の語法」は語彙力の強化にもつながりますし、それぞれの動詞が5文型のうちのどの文型をとるかを暗記することで、文の構造がわかるようになり、読解をする際にも役に立ちます。動詞の

語法は、「準動詞」と呼ばれる単元である、「不定詞」「動名詞」「分詞」の理解にも役立ちます。また、「分詞」の単元は「受動態」の理解が必要になりますので、この二つの単元はつなげて学習しておく効果的です。

高校英文法の最重要単元は、「比較」「関係詞」「仮定法」だといってよいでしょう。これら3つの単元は、中学で学習する内容に加えて非常に多くの内容を学習します。高校英文法をきちんと学習しているかどうかを測るために頻出の文法単元になりますので、細かいところまで念入りに学習しましょう。2025 年度公募制推薦入試の大問 3 においても、I wish に続く仮定法過去完了の表現を問う問題や、適切な関係詞を選択する問題が出題されていました。

「仮定法」の単元を正しく理解するためには、「時制」と「助動詞」の理解が不可欠です。「時制」→「助動詞」→「仮定法」の順に学習しておくと効率的です。

また、「品詞」についても、so と such の後に続く品詞を問う問題が 2025 年度公募制推薦入試の大問 3 に出題されていました。「品詞」については勉強が手薄になりがちな受験生が多い単元ですので、いざ出題されると差がつくことになります。学習計画にうまく組み込むようにしてください。特に、「接続詞」については読解においても重要な単元であり、「前置詞」については前置詞を含むイディオムが多くある単元です。優先的に学習しましょう。

＜読解力の強化＞

1. 400 語～800 語ほどの英文を読む訓練をしよう。
2. 固有名詞（人名・地名）・数字に関わる部分・比較・否定・時系列に注意しながら読もう。
3. 間違い選択肢の根拠を確認しよう。
4. 正解選択肢のパラフレーズを確認しよう。

2025 年度公募制推薦入試においては、大問 1 に 700 語程度、大問 2 に 480 語程度の読解問題が出題されました。400 語～800 語ほどの英文を読む訓練をしておきましょう。過去問も複数年度さかのぼって活用してください。問題集を活用するのもよいでしょう。テーマも一つに絞らず様々な分野の文章を読む練習をしておきましょう。

長文を読む際には、問題に関わりやすい部分に注目しながら読むようにしましょう。人名や地名などの「固有名詞」は、後の問題で出てきた際に該当箇所が一目でわかるように、本文を読みながら丸で囲むようにするとよいでしょう。また、年号、年齢、分数、割合など「数字に関わる部分」も問題に関係する可能性の高い部分です。チェックしながら読み進めていきましょう。その他、「比較」「否定」「時系列」に関する部分も問題に関連する可能性の高いところです。本文を読みながら注目していくようにしましょう。

問題を解き終わった後の復習の仕方も重要です。「間違い選択肢」については、本文中の記述のどの部分を根拠に間違いと判断できるのか、一つずつ丁寧に確認する作業を行いましょう。「本文のこの部分と食い違っているため誤り」「本文に書かれていないため誤り」など、その選択肢を誤りだと判断できる根拠を本文の中で確認します。また、正解選択肢についても、本文のどの部分と一致しているのか、また言い換えがなされているかを確認してください。このように、選択肢を丁寧に照合することで、間違い選択肢を見抜く力が磨かれます。

3 それぞれの英文の下線部に当てはまる最も適切なものを(A)～(D)より一つ選び、その記号をマークせよ。(2025 年度 甲南大学公募制推薦入学試験【教科科目型】模擬試験問題より抜粋)

2. When I _____ for the test in my room, I heard a strange noise coming from the kitchen.

- (A) prepared
- (B) was preparing
- (C) have prepared
- (D) have been preparing

3. The man I met in downtown was _____ to tell me where the department store was.

- (A) kindly
- (B) kindness enough
- (C) too kind
- (D) kind enough

4. He is so honest in what he says that he is _____ by everybody.

- (A) look up
- (B) looking up to
- (C) looked up
- (D) looked up to

6. He is such an efficient worker that he finishes _____ I do in a day.

- (A) three times as much work as
- (B) three times as many work than
- (C) as three times the work as
- (D) as many as three times the work

大問 1・2 では制限時間内に本文を読み切る速読力が求められます。速読力は、参考書や授業で学習した長文の復習の際につけることができます。以下でその方法を詳しく説明します。

長文問題の復習方法

復習は以下の 2 ステップで行いましょう。

Step1 文の構造・知らなかった単語・熟語・文章の構成などを復習する。

多くの人がここで終わりがちですが、他の受験生と差をつけたいのであれば、Step2 まで必ずやりましょう！

Step2 音読

1 つの長文につき、15 回音読しましょう！

音読に関してよくある質問と答えを以下に書きます。

Q 1 度に 15 回連続で読むんですか？

A 1 度に読むのではなく、3 回×5 日(1 日 3 回で 5 日間)や、2 回×7.5 日など、何日間かに分けて読みます。これで英文に触れる回数が今までの何倍にも増えますよね！

Q どんな効果があるんですか？

A 音読には「返り読みをしない癖がつき、速読できるようになる」という効果があります。

英文読解を勉強し始めの時期は関係代名詞が出てきたらうしろの関係詞節を訳してから前の先行詞を訳すといったように、返り読みをして正しく訳す練習をしていきます。ただし、試験本番では英文はできるだけ返り読みをせずに読まないで時間が間に合いません。音読をしているときは、返り読みは絶対できないので、直読直解の癖がつきます。直読直解（返り読みをしない読み方）の練習は、初見の文章では最初はハードルがたかく投げ出してしまいがちなので、復習(Step1)が終わり、あらかじめ理解が出来ている文章で行うのがベストです！音読の効果はすぐにでるものではありませんが、じわじわ効いてきます。正しく復習し、音読をすることによって、試験時間内に問題が解き終わらないということがなくなります！

Q 音読してみたのですが、何に意識して読んだらいいかわからず、今の方法で進めていっていいのかわかりません…

A 一番多いタイプの悩みです。まず音読する際に注意すべき点は① 文構造(SVOC) ② 和訳 ③ スラスラ読めているか の 3 点です。ただし、最初からこの 3 点を全て意識しながら音読しようとすると、どれも不完全になってしまい、すぐに投げ出してしまいかねません。なので、最初は音読する際にテーマを持って、読むようにしましょう。たとえば、「今日は 1 つの英文を 3 回読むから、1 回目は文構造、2 回目は和訳、3 回目はスラスラ読めているかを中心に意識していこう！」っていう感じです。実際初めの頃は、文構造を意識して読んでも、音読しながらであれば 80%程度しか意識できず、無意識のうちに和訳は 20%ほど頭に浮かんでくる。という感覚を持つ人も多いですが、それで OK です！最初から全て完璧でなければいけないわけではなく（そう考えてしまうと辛くなり音読をやめてしまうので）完成度より続けることが大事と考えるようにしましょう！